



なか むら まさ はる  
**中村 勝春**

けん とく らぶ  
**県都クラブ**

### 年度途中で入園がかなわない児童の対策は

**問** 年度途中で待機児童が増えるのは、4月当初に比べて定数に空きが出にくい上、特にゼロ歳児は国の設置基準で3人に1人の保育士が必要となるため、途中入所のハードルが高くなっているからである。年度途中の保育ニーズに対応するために必要な保育士を年度当初から確保する経費について、民間保育所を対象に一定期間補助するなどといった対策はとれないのか。

**答** 年度当初は待機児童ゼロを継続しているものの、年度途中には待機児童が発生していることから、今後も民間保育所に対して施設増設の支援や既存施設を最大限活用した定員拡大の働き掛けを行っていくとともに、公立の定員拡大を図るため津市立の認定こども園の構想を進めていく。また、年度当初から保育士を確保する経費の補助事業については、平成22年度から25年度までの4年間、市単独事業として民間保育所に提案してきたが、保育士の柔軟な活用に制約があることなどの理由により実施に至らなかった経緯があることから、直ちに当該事業を採用するという状況にはないものと考えている。

### ●その他の質疑・質問●

- 防犯灯設置補助金について
  - LED設置補助の要望があれば全て対応するのか
- 子育て支援について
  - 育休退園をなくすための対応
- 公共施設の在り方について
  - 長寿命化をどのように図るか
- 第二次消防力整備計画から
  - 南分署の移転整備の状況は
- 下水道事業について
  - 接続状況と推進活動は など



▲子育て支援の充実を



ふく た けい いち  
**福田 慶一**

しみんく らぶ  
**市民クラブ**

### 慢性的な保育士不足の打開を

**問** 国は5年間で待機児童ゼロの目標を掲げており、多くの自治体がそれに向けて努力している。一方、保育士の求人倍率は2倍を超え、確保がままならない状況である。潜在保育士も70万人もいる。早期離職者も多い。低賃金と長時間労働が主な要因だ。津市も保育士確保に向けてさまざまな努力をしているが、今後どうするのか。また、幼児教育・保育の質の向上は。

**答** 保育士の確保策については、処遇改善が大きな要素であると考えている。今年度からスタートした、子ども・子育て支援新制度や平成26年度の公務員給与の見直し等により、保育士の給与改善が図られている。今後も国の取り組みがさらに進み、県・市が連携して処遇改善等が進んでいくことが望ましいと考えている。また、公立保育所の正規保育士や育休代替任期付職員を増員し、職員の適正配置に取り組んでいく。

幼児教育・保育の質の向上については、公立・私立それぞれの幼稚園と保育所が、これまで培ってきた教育・保育の基本を真摯な姿勢で未来につないでいくことで、子どもや保護者の皆さんが期待する質の高い教育・保育を実現できると考えている。

### ●その他の質疑・質問●

- 財産管理計画について
  - 地方公会計統一基準の考えは
  - 公共施設等総合管理計画は
- 職員採用について
- 生活道路について
  - 生活道路の実態は
  - 今後の対策は
- 道徳教育について
  - 道徳の教科化について
  - 教員の指導力について
- 水道事業について



▲保育士を確保し、幼児教育・保育の質の向上を